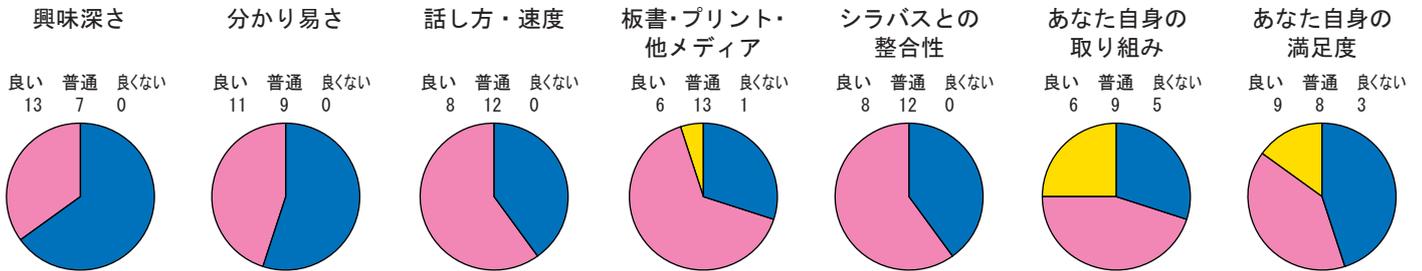


平成15年度2学期 生物学類授業評価

「総合科目 A 遺伝子がつくる文明」

回答者数：20名 履修申請生物学類生数：56名 (回答率35%)



良かった点

- ・様々な分野で働いている方々の話が聞いてよかった。
- ・総合科目なので、他学類が自分とは違う見方をしていることがあり、それが質問からみてとれるのがよい。
- ・いろいろな先生のそれぞれの専門・内容を聞いた点。
- ・テストが無いこと。
- ・遺伝子組換え食品について賛成, 反対両方の意見の先生の話がきけてよかったです。

改善すべき点

- ・もう少しプリントなど、講義内容が分かりやすくまとめられた資料が毎回あればよかった。
- ・組換え食品に限定した話では、二学期がもたないというか、もっと別の話題も欲しかった。
- ・後半、特に何もやらなかったのはちょっと・・・
- ・プリントをもっと配って欲しかった。
- ・二学期になって学生側の気の緩みが出てきて一学期に比べると緊張感のない授業でした。学生側がいけないのですが、あの雰囲気はどうにかならないでしょうか。
- ・let it beに関する時間が、少し長かったような気がします。
- ・スライドの文字が薄くて見えない時があった。

担当教官のコメント

ほとんど全てのコメントは受講生の人数が多すぎることに由来しているようだ。確かに受講生の人数が多いことによる欠点は沢山ある。しかし、逆に多いことによる利点も少なからずある。最初の授業ではその例を具体的に挙げながら良く考えてこの科目を選択するように注意深くガイダンスをしてきたはずである。来年度以降も申請者数が増えることが予想されるので、これらのコメントを例に挙げて更にきちんとしたガイダンスをしたい。また質疑応答を手際良くこなすためにティーチングアシスタント(TA)との打ち合わせもきちんとしていきたい。その結果、人数が多くても気にならない授業環境づくりも最大限工夫したい。

実は、すべての総合科目の中で、この総合科目「遺伝子がつくる文明」は長年に渡り受講生の数が群を抜いて全学で1位なのである。申請者数が420-480名もあり、これだけの人数が受講できる教室が筑波大学にはないことから先ず受講制限を実施している。その際、特定の学群・学類を指定して受講制限を設定すべきではないという考えから、すでにシラバスに書いている通り1年生を優先している。それでも結果的には400名前後の受講生(今回は428名)を定員350名の教室で受け入れることになる。出席率が9割であることを想定してもこれは極めて異常なことなので、最初の授業の時に「できれば自主的に他の総合科目に変えてほしい」とし、そして「どうしてもこの科目を受講したい場合はこの異常事態を受け入れる」という条件付きで正式に申請するよう繰り返し指導しているし、シラバスにもその旨を記載してある。したがって、全ての受講生はこの条件を受け入れたの上で受講しているはずなのに「人数が多すぎる」「人数を減らしてほしい」というコメントは理解が苦しむ。「自分は受講するが他人は制限して人数を減らせ」という主旨の身勝手なコメントは是非差し控えるようにして頂きたい。